

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284072

研究課題名(和文) 大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価

研究課題名(英文) Development and Evaluation of Japanese Writing Education that Assists the Formation of Undergraduate and Graduate Students' Careers

研究代表者

村岡 貴子 (MURAOKA, Takako)

大阪大学・国際教育交流センター・教授

研究者番号：30243744

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大学・大学院での研究から社会での実務に至るまで、そこで必要なライティングを包括的に捉え、その教育について議論した。具体的には、言語表現の言い換えであるパラフレーズ、論文スキーマ、文章評価ツールとアセスメント、コーパス、大学初年次教育、専門分野教員との連携、ライティングを支援する大学院生の育成、社会人が必要なライティング活動等である。以上の考察の結果、大学教育と社会で各々必要なライティング活動には、教育・支援すべき留意点に接点が多く、分野を超えた大学と社会をつなぐ transferable skills の視点の有用性が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This research took a comprehensive view of the writing skills its subjects required from their time as undergraduate and graduate university students to their time in the workforce. Specifically, it includes paraphrasing in Japanese as a second language, schemata for academic writing, text evaluation tools and assessments, use of linguistic corpora, collaboration with academic field specialists, education of graduate students who can teach academic writing skills, and writing skills necessary in the workplace. A consideration of these skills clearly shows that language learning at university creates transferable skills beyond a particular academic field. It is therefore important to foster the many language skills that can be used both in the university and in the workplace.

研究分野：日本語教育学

キーワード：アカデミック・ライティング 在学段階 内省 学習過程 人材育成 パラフレーズ トランスファラ
ブル・スキルズ キャリア

1. 研究開始当初の背景

大学や大学院レベルの留学生に対する日本語教育においては、昨今、ライティング教育への関心が高まり、さまざまな学習活動の考案や教材・学習材の開発、およびそれらに関する調査研究が行われている。一方で、高大接続や初年次教育、キャリア支援、ビジネスコミュニケーション教育といった、在学段階や社会への橋渡しの観点も、当該教育にとって重要なものとなりつつある。

2. 研究の目的

本研究は、現在、高等教育で一層重要性を増している日本語によるライティング能力の向上に資することを旨とし、日本の大学に在籍する留学生の学部・大学院の在学段階の違いに着目した上で、社会人への橋渡しも視野に入れた日本語ライティング教育を俯瞰し、学部入学直後から大学院修了までの当該教育の開発とその評価を行うことである。同時に、社会における実務で必要なライティングやその活動支援についても検討し、人材育成を行う大学へのフィードバックを考察する。

3. 研究の方法

(1) 留学生や元留学生の社会人への調査

学部と大学院での日本語によるライティングに関する調査、留学生や、元留学生のビジネスパーソンや研究職に就く卒業生・修了生等への種々の調査を実施した。

(2) 日本の大学における授業実践の分析

大学における初年次教育としての、あるいは学部・大学院レベルのライティングの授業における学習者の意識や学習過程について分析・考察し、かつ、関連のアンケート・インタビュー等の調査を行った。

(3) 海外の大学における協力者への調査

海外の大学の教員等にインタビュー調査、実験授業や学習者への意識調査を行った。また、海外の大学における日本語ライティング

教育の事情について情報収集を行い、日本側の大学の情報を提供する等、研究交流を進めた。

4. 研究成果

まず、本研究では、「ライティング」を「レポートや論文、報告書等の一定量を伴う文章、またプレゼンテーションのための視覚資料の作成等、大学や社会の実務で求められる文書の作成」(図書)と定義した。その上で、大学・大学院での教育研究から社会での実務に至るまで、そこで必要なライティングを包括的に捉え、その教育や研究についてさまざまな観点から取り上げて議論を行った。

具体的には、言語表現の言い換えであるパラフレーズ、学習者が涵養すべき論文や研究に関する概念知識の総体である論文スキーマ、文章評価ツールとしてのルーブリックとアセスメント、コーパスの活用、大学初年次教育、専門分野教員との連携によるライティング教育、工学系学生が卒業後に社会で必要とされるライティング、ライティングを支援する大学院生向けライティング教育、社会で必要なライティングとその支援等である。

以上の考察の結果を総合し、大学教育と社会で求められるそれぞれのライティング活動には、文章ジャンルの多様性はあっても、教育・支援すべき留意点に接点が多く、専門分野の違いや在学段階を越えた共通性があることが明らかになった。これらの知見から、在学段階を俯瞰し、大学と社会をつなぐ視点の重要性を指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

村岡貴子・堀一成・坂尻彰宏(2018)「大阪大学における日本語ライティング教育の実践 2017年度の留学生および一般大学院生を対象とした各授業の報告から」『大阪大学国際教育交流センター研究

論集多文化社会と留学生交流』第 22 号、pp.23-32、謝辞記載有、

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/67904/MESE_22_023.pdf .

仁科喜久子・八木豊・ホドシチェック・ボル・阿辺川武 (2017)「作文学習支援システムのための接続表現辞典構築」『計量国語学』31 巻 2 号、計量国語学会、pp.160-176 . 査読有

村岡貴子・磯野英治・花井理香・大平幸・上仲淳・村上康代・金孝卿 (2016)「2014 年度超短期プログラム「アカデミック・ジャパニーズの基礎」の実践報告」、『大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流』20 巻、pp. 81-93、謝辞記載有、

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/55559/MESE_20_081.pdf .

村岡貴子 (2016)「アカデミック・ライティング教育の視点から見た大学における専門日本語教育」Nagoya University Asian Law Bulletin、2 巻、pp.25-40、招待、謝辞記載有、

http://cale.law.nagoya-u.ac.jp/_userdata/alb2_toku2.pdf .

村岡貴子・因京子 (2015)「国内外の大学教員が語る日本語アカデミック・ライティング教育への期待と課題 - 自身の学習・研究・教育の経験から - 」『専門日本語教育研究』17 巻、pp.35-40、査読有・謝辞記載有 .

堀一成・坂尻彰宏 (2015)「大阪大学におけるアカデミック・ライティング教育の実践と教材作成」『大阪大学高等教育研究』第 3 号、大阪大学全学教育推進機構、pp.27-32、査読無、

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/51489/ouhes_03_027.pdf .

脇田里子 (2015)「学部留学生を対象にした『段階的アカデミック・ライティン

グ』の導入」『コミュニカーレ』同志社大学 グローバル・コミュニケーション学会、第 4 号、pp.35-61、査読有 .

村岡貴子・因京子 (2014)「ワークショップ『日本語アカデミック・ライティングの核心をつかむ』実施報告および受講者へのアンケート調査の結果と考察」、『銘傳日本語教育』(台湾) 第 17 期、pp.1-21 .

村岡貴子 (2014)「上級アカデミック・ライティング授業の実践報告 文章の比較・分析・評価タスクによる教材を用いて」『大阪大学国際教育交流センター論集多文化社会と留学生交流』第 18 号、pp.1-13、謝辞記載有、

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/50836/MESE_18_099.pdf .

近藤彩 (2014)「日本語非母語話者と母語話者が学びあうビジネスコミュニケーション教育 ダイバーシティの中で活躍できる人材の育成に向けて」『専門日本語教育研究』招待、第 16 号、pp.15-22 .

[学会発表](計 19 件)

山路奈保子・因京子 (2018)「日本語で行なわれるゼミに参加している入門期学習者は何を聞きとっているか 日本語教育からの支援の在り方を探るために」『第 19 回東アジア日本語・日本文化 FORUM 東アジアから「日本」を考える』、仁川大学校 15 号館、韓国仁川市、2018-3-17 .

村岡貴子・劉偉 (2018)「日本語学習者のアカデミック・ライティングにおける引用に関する調査・分析」『専門日本語教育学会第 20 回研究討論会誌』査読有、名古屋大学、pp.26-27、2018-3-2、謝辞記載有、

http://stje.kir.jp/download/20STJE_discussion.pdf .

堀一成 (2018)「「やさしく伝える」ため

のパラフレーズ・ワークショップ」、大阪
大学全学教育推進機構、2018-2-20、
<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/events/180220>

堀一成・坂尻彰宏(2018)「大阪大学2016
年度学部新入生アカデミック・スキル調
査」ポスターセッション、第2回大阪大
学豊中地区研究交流会、大阪大学、
2018-1-10.

村岡貴子(2017)「論理的思考力涵養のた
めの方策と課題：事例分析から」太田亨・
佐藤尚子・菊池和徳・藤田清士・村岡貴
子、パネルセッション「学部段階の日本
語教育と理工系専門教育との効果的な連
携 数学教育・物理教育とのコラボ授業
事例から」『日本語教育学会秋季大会予
稿集』査読有、新潟大学、謝辞記載有、
2017-11-25.

太田亨・菊池和徳・安龍洙・村岡貴子、
(2017)「韓国人工系学部予備教育生の
「論理」に対するレディネスの実態－日本
語教育と数学教育のコラボ授業の答案と
アンケートの考察を通じて－」、第19回
専門日本語教育学会研究討論会、横浜国
立大学、『第19回専門日本語教育学会研
究討論会誌』pp.12-13、査読有、
2017-03-03、
http://stje.kir.jp/download/19STJE_discussion.pdf.

村岡貴子(2017)「東アジアを中心とした
専門日本語教育の実践拡大と研究開発の
可能性 研究者間の連携・協働の強化を
目指して」第18回東アジア日本語・日本
文化フォーラム、パネルディスカッショ
ン、九州大学、2017-02-04、招待、謝辞
記載有.

村岡貴子(2016)「社会人日本語非母語話
者による職場での日本語ライティングに
関する内省 日本留学経験者のビジネス
パーソン・研究員への調査から」『第38

回社会言語科学学会大会発表論文集』招待
発表、謝辞記載有、京都外国語大学、
2016-09-03、pp.90-93.

村岡貴子(2016)「アカデミック・ライテ
ィングの視点から見た大学における専門
日本語教育」『名古屋大学アジア法交流館
落成記念国際シンポジウム第1セッショ
ン：日本法教育研究センターにおける法
学と日本語教育学の多元複層的なアーテ
ィキュレーション』招待講演、パネリス
ト、名古屋大学、2016-03-12、謝辞記載
有.

劉偉・村岡貴子(2016)「中国の大学にお
ける協働的日本語アカデミック・ライテ
ィング学習の可能性 - 華南師範大学に
おける教育実践に基づいて - 』『第18回
専門日本語教育学会研究討論会誌』
pp.18-19、京都産業大学、謝辞記載有、
2016-03-04、

http://stje.kir.jp/download/18STJE_discussion.pdf.

近藤彩、(2015)パネル登壇「固定しがち
な言語教育観を問い直す 協働学習の実
践に向けて」言語文化教育研究学会第1
回年次大会シンポジウム『教室・学習者・
教師を問い直す』招待講演、東洋大学、
2015-3-21.

村岡貴子(2015)「大学の日本語教育にお
けるライティングのあり方と意義」『東京
大学 日本語教育連絡協議会及び講演会』
招待講演、2015-3-9、謝辞記載有.

堀一成、坂尻彰宏(2015)「大阪大学に
おける全学出動体制を目指したアカデミ
ック・ライティング指導の取り組み」大
学教育改革フォーラム in 東海 2015、名
古屋大学、査読無、2015-3-7.

村岡貴子(2015)「大学の日本語教育にお
けるライティングのあり方と意義」招待
講演、タイ王国 カセサート大学 人文学
部東洋言語学科、謝辞記載有、2015-2-24.

東山禎夫・仁科浩美(2014)「電気電子工学科の技術系文書作成法の導入」電気学会教育フロンティア研究会、京都大学、査読無、2014-12-14.

鎌田美千子(2014)「第二言語としての日本語によるパラフレーズと引用 文章から意味を読み取って表す」第25回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会、招待講演、パネルディスカッションパネリスト、『第25回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会予稿集』pp.18-23、筑波大学、2014-12-13.

脇田里子(2014)「批判的読解を取り入れたアカデミック・ライティングの実践 学部留学生を対象にしたリーディングとライティングの連携」シドニー日本語教育国際研究大会2014(University of Technology Sydney, Sydney, Australia)、査読有、2014-7-11.

村岡貴子・因京子(2014)「日本語アカデミック・ライティングの核心をつかむ」2014国際学術研討會「應用日語教育的理論與實踐」(Theory and Practice in Applied Japanese Education)、招待、ワークショップ、謝辞記載有、銘傳大學(台湾)、2014-3-14.

村岡貴子・因京子(2014)「文章の比較・分析・評価タスクによる日本語ライティング教材を用いた実験授業とその評価」『第16回専門日本語教育学会研究討論会誌』、pp.15-16、富山大学、謝辞記載有、2014-03-01、
http://stje.kir.jp/download/16STJE_discussion.pdf.

〔図書〕(計15件)

村岡貴子・鎌田美千子・仁科喜久子編著(2018印刷中)『大学と社会をつなぐライティング教育』(仮) 謝辞記載有、くろしお出版.

因京子、(2018)「大学初年次生の学術的・実務的文章のスキーマ形成」『ことばのパーспекティブ』中村芳久教授退職記念論文集刊行会(編)開拓社、pp.464-475.

因京子・アブドゥハン恭子・森山ますみ・松村瑞子、(2018)『看護師のためのライティング練習』日本赤十字九州国際看護大学、全147p.

堀一成・坂尻彰宏(2017)「阪大生のためのアカデミック・ライティング入門」(第3版)大阪大学全学教育推進機構、全37p、
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/54512/2018_academicwriting.pdf.

中島祥子(2017)「第2回 課題を発見する「問い」をつくる」pp.17-28、「第9回構成を見直し、序論を作成する」pp.100-108、「モデルレポート」pp.166-170、『「初年次セミナー」ワークブック 第2版』鹿児島大学総合教育機構、全170p.

仁科喜久子・八木豊・阿辺川武・ホドシチェク・ボル著、江田すみれ・堀恵子編集、(2017)『誤用分析からみた作文指導への示唆 習ったはずなのに使えない文法』くろしお出版、pp.211-232.

石黒圭(2017)『大人のための言い換え力』NHK出版新書538、全250p.

石黒圭編著、新城直樹・庵功雄・岩崎拓也・金井勇人・黄明侠・末繁美和・俵山雄司・張志剛・永谷直子・宮澤太聡・宮部真由美・劉洋著、(2017)『わかりやすく書ける作文シラバス』くろしお出版、全271p.

庵功雄・石黒圭・丸山岳彦編著、砂川有里子・俵山雄司・ポリマー ザトラウスキー・野田尚史・山室和也・渡辺文生(2017)『時間の流れと文章の組み立て 林言語学の再解釈』、ひつじ書房、全277p.

村岡貴子(2016)「大学に在学する留学生への日本語AW教育の再考 - 来日前日本

語AW教育の再考 -来日前日本語教育との接続および社会への橋渡しを視野に
-」三牧陽子・村岡貴子・義永美央子・西口光一・大谷晋也編『インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践』くろしお出版、全309p.

石黒圭著、阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三編(2015)「日本語学習者の意見文に見られる列挙の文章構造の問題点 中国語母語話者と日本語学習者の予告文を比較して」『文法・談話研究と日本語教育の接点』くろしお出版、pp.223-242、全360p.

石黒圭(2015)「書き言葉・話し言葉と『硬さ/軟らかさ』」『日本語学』34-1、明治書院、pp.14-24.

石黒圭編著、有田佳代子・安部達雄・烏日哲・金井勇人・武一美・志賀玲子・渋谷実希・志村ゆかり・筒井千絵・二宮理佳著、(2014)『日本語教師のための実践・作文指導』くろしお出版、全224p.

村岡貴子(2014)「専門日本語ライティング教育 論文スキーマ形成に着目して」大阪大学出版会、謝辞記載有、全214p.

脇田里子(2014)「新聞の論説文読解における文章構造分析 文章構造の可視化の実践」第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集編集会編、『日本語教育と日本研究における双方向性アプローチの実践と可能性』ココ出版、pp.181-19、査読有、全994p.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)代表者

村岡 貴子 (MURAOKA, Takako)

大阪大学・国際教育交流センター・日本語教育研究チーム・教授

研究者番号: 30243744

(2)研究分担者

石黒 圭 (ISHIGURO, Kei)

国語研究所・教授

研究者番号: 40313449

鎌田 美千子 (KAMADA, Michiko)

宇都宮大学国際学部・准教授

研究者番号: 40372346

因 京子 (CHINAMI, Kyoko)

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授

研究者番号: 60217039

中島 祥子 (NAKAJIMA, Sachiko)

鹿児島大学・法文教育学域・准教授

研究者番号: 80223147

堀 一成 (HORI, Kazunari)

大阪大学全学教育推進機構・准教授

研究者番号: 80270346

(3)連携研究者

近藤 彩 (KONDO, Aya)

麗澤大学・外国語学部・教授

研究者番号: 90377135

仁科 浩美 (NISHINA, Hiromi)

山形大学理工学部・准教授

研究者番号: 10431644

仁科 喜久子 (NISHINA, Kikuko)

東京工業大学・名誉教授

研究者番号: 40198479

脇田 里子 (WAKIRA, Riko)

同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・准教授

研究者番号: 20251978